# 命名規則

## 本書の目的

命名規則を定める目的は以下の通り。

* リソースの役割を示す
* 対象リソースの取り間違えを防ぐ
* 管理上の識別性

命名規則によって以下の識別を明確にする。

* 対象システム
* 環境 (本番、ステージング、開発、性能試験)
* AWS リソース (Lambda、Security Group、RDS、ELB など)

## 関連資料

本書の前提となる資料、情報元となる資料は以下の通り。

* [非機能要件一覧](https://docs.google.com/spreadsheets/d/1B5z5-YWOrzDnu0gY5AM-_wRCRX9LD9EZ/edit?usp=share_link&ouid=106375452255861814726&rtpof=true&sd=true)
* [構築ガイドライン](https://drive.google.com/file/d/1KaAbHae4c2WQy37im2Ujmpvk_nD-QD8-/view?usp=share_link)
* [クラウドセキュリティガイドライン](https://docs.google.com/document/d/1uHi7mWWJaxotaLL3iJ90vqa7ZCzF9PId/edit?usp=share_link&ouid=106375452255861814726&rtpof=true&sd=true)
* [POHR論理システム構成図](https://app.diagrams.net/#G122z8inmGkVqX_vwh6zkzKVSDbcr20eBX)

# 対象非機能要件

本書に関連する対象非機能要件は以下の通り。

| 大項目 | 項番 | 定義項目 | 決定メトリクス | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| セキュリティ | E.1.1.1 | 情報セキュリティに関するコンプライアンス | 順守すべき社内規程、ルール、法令、ガイドライン等有 | LION様策定のクラウドセキュリティガイドライン、構築ガイドラインを従った設計 |
| システム環境・エコロジー | F.1.1.1/F.1.2.1 | 構築/運用時の制約条件 | 制約有り(重要な制約のみ適用) | LION様提供のAWSクラウドセキュリティガイドライン、AWS構築ガイドライン |

## 基本ルール

命名規則の基本ルールは以下の通り。

* 単語間はハイフン (-) で結ぶ
* 英小文字と数字のみを使用

マルチバイト文字、英大文字、記号、アンダースコア (\_) は使用しないようにする。

# 命名規則表

* 対象システムの名前(sysname)
  + システムで一意となる識別子(例：pzone,dzone,lzone,oral,notifidel)
* 環境(env)
  + 本番、ステージング、開発など(PRD/STG/DEV/PERF)
* ネットワークレイヤー(nlayer)
  + パブリック、プライベートなど(public/private)
* 種別（type）
  + APサーバー、DBサーバーなど(app/db)
* 目的（use）
  + ログ保管用、静的コンテンツ配信用など(log/contents)

## AWSリソース

| AWSリソース | 命名規則 | 備考 |
| --- | --- | --- |
| VPC | {sysname}-{env}-vpc |  |
| Subnet | {sysname}-{env}-{nlayer}-{type}-subnetXX | XXは連番、AZ毎に分ける |
| RouteTable | {sysname}-{env}-{nlayer}-rtb |  |
| InternetGateway | {sysname}-{env}-igw |  |
| ELB | {sysname}-{env}-alb |  |
| TargetGroup | {sysname}-{env}-tg |  |
| EC2 | {sysname}-{env}-{type}XX |  |
| ECS Cluster | {sysname}-{env}-{type}-cluster |  |
| ECS task | {sysname}-{env}-{type}-{use}-task |  |
| ECS Container | {sysname}-{env}-{type}-{use}-container |  |
| Lambda | {sysname}-{env}-{use}-lambda |  |
| API Gateway | {sysname}-{env}-api |  |
| IAMRole | {sysname}-{env}-{type}-role |  |
| SecurityGroup | {sysname}-{env}-{type}-sg |  |
| RDS | {sysname}-{env}-rds |  |
| S3 | {sysname}-{env}-{type}{use}-{AccountID} | 下記「S3命名規則補足」を参照 |

## S3命名規則補足

S3 バケット名称を決定する際は以下に留意する。

* 全世界で一意になるようにする
* 3～63 文字以内にする
* 英文字で始まり、英数字で終わる
* 英数字とハイフン以外は使用しない、大文字またはアンダースコアを含めない
* 末尾にハイフンと数字を付けない
* 仮想ホスティング形式のバケットを使用するときは、バケット名にピリオド (「.」) を使用しない

# タグ

上記で定めた命名規則は Name タグに付与する。

環境ごと、システムごとにリソースを検索することは、管理面やコスト把握に有用である。  
そのため Name タグの他に環境タグとシステムタグも付与する。

## Technical Tags

| タグキー | タグ値 |
| --- | --- |
| Name | 命名規則で定めたリソース名称を入力 |
| Environment | 環境名 (PRD/STG/DEV/PERF など) |
| SystemName | システムを識別可能な文字列 |
| ApplicationID | 稼働しているアプリケーションを識別する文字列 |
| ApplicationRole | アプリケーション機能 (Web/DB/batch など) |